

RNC 西日本放送ラジオ番組

CHIT CHAT RADIO 子育てCHAT ROOM

2021年1月19日 13時21分～13時43分



人類の進化が創る男の脳、女の脳。夫にもっと家事・育児をしてもいいには？

—このコーナーではリスナーの皆さんから届いたお悩みについて鈴木先生にお答えいただきます。まずは亀谷さんからメッセージの紹介をお願いします。

—高松市内にお住まいのラジオネーム山吹さんからいただきました。

今、七歳と二歳の子育てをしています。子育ての悩みなのですが、夫が子育てに協力してくれなくなってきたんです。子どもが生まれる前や上の子どもが生まれて二、三年は一緒にいろいろ考えてくれたり、協力的だったのですが、最近はおの子が小学校に入ったこともあってか、「ほっとけば大丈夫だとか、子育ての悩みを相談しようにも、「ある程度はママが頑張るよ」と言われちゃいました。たまに子どもを外に遊びに連れて行ってくれたり、休みの日で気分が乗っている時は子どもともよく遊んでくれたりはします。もう少し一緒に子育てをしている実感が欲しいだけなのかもしれません。いつも外で仕事をしてきている夫には酷なことなのでしょう。私は在宅で片手間でできるような簡単な仕事をしているだけです。

在宅で仕事をされるのも大変なのでそんなことはないと思いますけどね。

—ご主人が最初は参加してくれていたのに、「このところちょっと奥さんに任せたり、「放っておけば子どもが成長するよ」と言うようなスタンスになって、自分かと思うようには手伝ってくれないというお悩みを抱えていらっしゃるの山吹さんですね。まずは先生、「このメッセージを聞いての印象はどうでしょう。」

多いですね。女が思うように夫が動いてくれないっていうのはよくあるんですよ。当たり前ですよ。

—ドキッとしますね。子育てだけではなくて日常の暮らし、職場での生活とか全体的なこと苛立っている女性のことには気づかず、私を含め男たちはポケーッと暮らしているところもあるんじゃないでしょうか。(笑)

—いろいろな注意しないといけないと思わせられるメッセージですね。ちょっと手伝ってくれたらいいのになど私も思います。先生、「こういう家族の悩みっていうのは多いと思いますが、なんでそうなるかっていうのをどうしてあげよう。」

—このことを考えるには、人類の歴史を振り返ってみるとわかりやすいです。人類

は誕生してから六五〇万年という長い間、狩猟採集をして暮らしてたんです。農業を始めて一万二千年で、産業革命が始まって二五〇年。こう見ると非常に長い間、狩猟採集してたんです。男の人は毎日槍を持って狩りをして、女の人は身近な所で子どもを育て、木の実や果物を採集して過ごしていたんです。六五〇万年、その生活に有利な遺伝子が蓄積されてきました。例えば女の人は色に対してすごく敏感なんです。子どもの顔色を見て具合が悪くないかとか、果物が腐っていないかとか見るために、ピンクやオレンジなどの色を区別する視神経が発達しています。男の人はその神経は発達してなくて、どちらかと言うと動きを見る神経が発達しています。狙った動物の動きや位置を把握し、どのように走ったら追いつくかとか、空間認知力が発達しています。男の子はやっぱり動く電車とかがすごく好きじゃないですか。

—そうですね、確かに。そういう空間認知力はスポーツに活かされたりしますよね。

女の子は乗り物よりは、きれいな色遣いで絵を描くことや人形が好きですよね。小さい頃から男女でとても好みが違います。それに女の人はものを言わない赤ちゃんの表情を察したり、人の気持ちを表情から読み取るのが得意なんですよね。

—うちの妻は保育士をしていたのですが、子どもたちが出てきた時に必ず顔色を見る癖が仕事として身に付いているからか、帰宅した時にちょっと疲れたりすると、顔色の微妙な変化を確かによく察してくれますね。

—そうですね。女の人は顔色や表情を見るのが得意なんです。男の人は遠くにいる獲物を狩る、つまり一つの目的を達成する(問題を最短距離で解決すること)にすごく長けています。

—しかも子どもから大人までずっと変わらないんですよね。

六五〇万年間、ずっと変わらない、引き継いできた特性ですよね。だから変わらないのは仕方ないんだけど、奥さんが家で忙しくしてるのになんで何もしないんだ、なんで察しないんだって思いますよね。(笑)

—そういう人間に忙しいのになんで「ちょっと手伝おうか」とか「一言が出ないんだろ」とうって思います。

—そういうーなんだよ、「ロロロロロロロロロロロロロロロロ」その神経はべつなんだとか思っちゃおう。(笑)

—共通してますね。(笑)

を引いてあげたり。でもあれは気が利いてるんじゃないやなくて、そうするものだとか教え込まれたからそうしているわけです。部活動やっている男の子たちも全然気が利かないけど、先輩が後輩に仕事として教え込んでいるから、荷物持ちや片付けなんかができるわけです。家の中でも同じで、女が「これはあなたの仕事、お願いね」と任務を与え、できたら「ありがとっ」笑顔「みたいな感じで褒美を与えるといいです。そして、そういう仕事を少しずつ増やしていきます。

—子育てで今回の山吹さん二歳と七歳の子どもでまだまだ大変だけど、それに合わせて夫育てもしないといけないというごなんですかよね。

家庭はもともと女が仕切る女の世界だったけど、三十年前くらいから男女平等が制度化して女も外で働くのが当たり前になり、女が男の世界に入っていくようになりましたが、その分男も家庭という女の世界に入ることが期待されるようになりました。でも、男にはゴールのないマルチタスクな家事は不得意ですよ。掃除しつつ、天気がいいから布団を干そうと考えたり、煮物してる間に縫い物したり。新しいことをどんどん同時に臨機応変にやりますよね。

—限られた時間でやりくりしますよね。

男の人はそういう脳の作りではないので難しいですよ。

—例えば山吹さんの場合は上のお子さんは小学生ですが、旦那さんに分担してもらったから何をして貰えばいいでしょうか？例えば子どもをお風呂に入れるお風呂係とか。子どもがパパとお風呂の方が喜ぶとかアピールしながらやってもうつと良かったりしますか？

はい、そう思います。家事も女が得意じゃないことで、男が得意なこともあります。電灯の付け替えとかお風呂掃除とか。何か得意なものを仕事としてお願いするっていうのがいいですよ。自分が得意じゃないから、素直にすいねって言える。(笑)

—そこに感謝の言葉も添えながら。(笑)

—それは、男性としては「もう忙しいからいねへんやっ」って「お風呂掃除とかしてくれませんか？」とか「力あるからやっ」ていねへんやっ嬉しい「お風呂掃除とかしてくれませんか？」じゃあ、俺がやっ「みたいな気持ちに単純だからなんです。うまく操縦してほいって言う思いが勝手ながらあります。

家庭で役に立って、「ありがとっ」と言われると、嬉しくて脳からドーパミンが出ます。ドーパミン欲しさに、奥さんの笑顔見たのに「やっ」って「おっ」。さーん、私はその十倍やっけるけ

どね「じゃなくて」助かった、ありがとう」といのが大事ですね。子どもだけじゃなくて、夫にもドーパミンを出してあげないとね。(笑)

—賢い奥さんは「主人をうまくコントロールできるってことですね。しかもお風呂から出てきた奥さんに「あーお風呂がきれいで気持ちよかった」って言ってもらえると、「主人さんはもうお風呂の湯船が薄くなるくらいみがかくかもしれませんよー」(笑)

—ピカピカですね。(笑)ちゃんと一言一言添えるの、大事ですね。怒って「やってよー」と言ったら決裂しちゃうけど、上手に協力してもらって体制をつくることができますもんね。

—これは男性としてはありがたいし、夫婦円満につながりますよね。お子さんもお父さんお母さんが仲いい方が嬉しいじゃないですか。

そうですね。それが一番大事ですよ。

—お休みの日は、気分が乗っている子どもともよく遊んでくれたり、外に遊びに連れてってくれたりと、ずいぶんお子さんと関わる時間を積極的に持っている旦那さんだとわかりますね。ぜひ今後も続けてもらおうとして、ちよつと私が気になったのが小学校に入った頃から、「ほつとけば大丈夫だよー」とか関わり合いの距離感が少し変わってきたところがあったので、「これはどうなんじゃないか。その辺は話し合ったほうがいいんじゃないか？」

そうですね。ちよつと短い文だから、どつとどつと感で、「どつとどつと」話が出てきたのか見えないですが、例えばお母さんがすごく心配性でいろいろ相談するから「それは見守ればいいんじゃない」「どつとどつと」気持ちいかもしれませんね。お母さんの話には共感してくれるだけでいい時も多いんですけどね。男の人は共感が下手ですから、話をいろいろ聞いていると集中力が途切れてきて、言葉が頭に入つてこなくなってしまうですね。「」の話はどつとどつと聞いているんだらうって。男性はゴールが見えない話がすごく辛いらいじです。

—女性の話は私も含めてですが、よく言われますね。「結局何が言いたいの?」って。

そうですね。女はゴールを明確にせず話していますよね。でもそこから重要な情報を得ていて、何かあった時に「あの時、あの人があんなこと言った」とかすごく覚えてるんです。子どもが熱を出した時とか突発的な出来事に対応するために情報をためておくんですね(これはある意味、女の危機管理ですね)。男の人は一見無駄な情報に思えるものをつとておかないですね。流しちゃっ。

—そうですね。びびりすぎます。うかつにも初めて聞いたように「へえ、すいね」って驚くと「前も驚いてたよね」って言われます。(笑)

頭の中で重要じゃない情報って思っているのかな。女は逐一聞いてインプットしておきます。

—脳の仕組みがこんなに違うのであれば、やっぱり共感して欲しいなと思うときはちょっと話し方とか伝え方も大事かもしれないですね。

そうですね。

—ですから「ほっとけば大丈夫」っていうのも先生がおっしゃるたびに、どういうシチュエーションで言ったのかにやるんですね。話を色々聞くのがしんどくなると、「もういいよ、ほっと」といういう気持ちで言ってしまったのか、もしくは子どもとの距離が近すぎて、「もう小学校上がったから少し距離を置いてみたらいいんじゃないか」とどっちでいったのか分かりませんね。

—この間も話したけど、男は言葉少ないし、女はしゃべり過ぎだしね。

—山吹さんは自分の立場だけでなく、「主人はいつも外で働いてくれているので酷なんですよか」とあるように、相手の立場から物事を見て思いやれる方なんです。僕の経験から言うと、小学生になったら自分の足や自転車知らない土地に遠出したという気持ちが起こってくるんですよ。その時に父親が釣りに連れてってくれたり、山に入るとこの木がどうだとか、木の組み方とか教えてくれたのは嬉しかった。今大人になって焚き火する時に「あ、これ親父に教えてもらったとこかね。男女ってあまり言っはいけないけど、男性だからこそで、そのことを短時間でいいからお子さんと向き合って教えてあげて欲しいなっと思えます。

母親では教えられないことだと、夫に対してリスペクトが生まれますよね。

—だからきょうに「なんのこ」うはいいと思えますよ。山にゆくわっていってへね、そのうです。

—私の場合は「話が長い」「よく言われます」。そ「はいいから結論言っ」「言わね、そ「でカチンとして」「じゃあ、もう言わない」ってなります。(笑)

話の腰を折られるの、嫌ですよ。女はそこに行くまでのプロセスが大事、どうしてそう思ったのかとか、なんでそうしたのかとか。

—登場人物が多いですね。

男女でこんなにも違う。でも違うからこそ、惹かれて結婚するんですよ。

—違うものが組み合わさってよりいいものになりますよね。

—本当にそうです。今度、鈴木先生を我が家に招待します。(笑)今のお話をしてもらいたいです。実際、旦那が話を聞いてくれないとか、妻がとかいろいろと悩んでいる方いると思います。やっぱり些細なところから大きくなっていたりします。鈴木先生はオンラインの相談会、あとセミナーなど様々なことを企画されていると言っていることなので、近々企画されているものなどがあればぜひご紹介いただけたらと思います。

今日の午前もしていたのですが、オンライン交流会つていうのをしている、そこでこういう男女の脳の違いの話とか、「良い見本になる」など子育てのテーマにそって話したりします。次は二月十六日の午前中にやります。いつも紹介して頂いているホームページの「おやサポかがわ」の「セミナー案内」つていうところ見てもうしたら、随時イベントの案内をしています。もしよかったら参加していただいて、いろいろ語り合いましょ。

—些細なことから大事になったりしがちなので、早めにそついった芽を摘んでいきましょ。

—思考回路が違うんだよつていうことがわかれば腹立てなくて済みますもんね。

—平和に過ごせますよね。そついった脳の作りが違うつていうことを踏まえながら、話し方も変えていくつ面白いかもいれませ。

—質問を送つてくれた山吹さんありがとうございました。参考にしていただけると嬉しいです。

子育て相談をするときも、お父さんとお母さんでは全く違いますね。支援者の人に言うのですが、お母さんの話は共感しながら聴くことを大事にします。お父さんは問題解決を目的に相談に来るので、共感的傾聴はほどほどにして、ゴールはどこか、目的達成までにかかるおおよその時間、そこまでどんなステップが必要か、今ほどの状態で、具体的にどうすべきかを示すと満足してくれます。

夫に話すときも、「今度の誕生日会のことだけど、話したいのはいつやるか、どでやるか、何あげるかの三点」とか言つて、会話に集中してくれるのでしょね。または、「今日、つらいことがあつて話を聞いてもらいたんだけど、なぐさめの言葉を一発くれるつて」と会話の目的を明確にしておくと、余計な助言や批判をされずにすむかもね。(笑)